

平成26年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
生徒の多様な特性等に対応した魅力ある教育課程を編成する。	<p>①生徒の人間としての調和の取れた育成をめざし、適切な教育課程の運用及び改善に取り組む。</p> <p>②多様な選択や学習機会を提供し個々の生徒に応じた教育活動を展開する。</p> <p>③人権尊重の理念を理解させ個性ある豊かなこころを育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの特性やニーズに応えた教育課程の編成、運用が行われたか。 ・個々の生徒に応じた教育活動が展開できたか。 ・生徒が進路希望等に応じた科目選択ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期制に移行し、生徒一人ひとりの学習状況を的確に把握できるようになり、より効果的な指導を行うことができています。 ・入学者選抜の選考基準の変更とともに入学者に占める女子の比率が大きくなるなど生徒の在籍状況が大きく変化したのを機に、生徒の学習時間や学習内容に関するアンケート調査を実施した。 ・生徒の進路希望に対応できない不成立講座の対象人数が1年生で5名、2年生で10名であった。個々の状況を踏まえ対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期制移行にともなう学習活動の変化を把握し、より適切な指導を行うことができるよう、年間学習計画の見直しを行う必要がある。 ・次年度以降の2年生選択科目の授業のあり方を検討するため、今年度の状況をしっかり検証する必要がある。 ・学習に関するアンケート結果の分析を行い授業改善、進路指導等に結び付けていく必要がある。 ・生徒の進路希望に対応できるよう選択科目の精選を行い、進路指導の充実を図る必要がある。不成立講座を選択した生徒へは、放課後の補習等で対応予定である。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択科目について生徒がどのくらい理解して選んでいるかが、保護者としては不安に感じる。進路があまりはっきりしていない時期に決めるのには、事前に調べておく必要があることを保護者たちに周知して欲しい。 ・進路実現のための教育課程編成の展開をお願いしたい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を受けている態度がよく、わかっている生徒が教える学び合いの授業は良かった。 ・レベルアップ講座の今後の展開は、どのようにするのか。 <p>(その他)</p>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の学習に関するアンケート等を分析し、生徒の学習活動に反映できるよう適切な年間学習計画の策定を行う。 ・(改善方策等) ・新カリにおける教育課程全般の検証とレベルアップ講座等、生徒に対応した授業内容を検討し、充実させ、効果的な指導を図る。 ・継続的な学習、積み重ねの学習を学校目標等に位置付け、手立て等を検討する。 ・3年経った入学者選抜の選考基準等の振り返りや分析を行い生徒に対応した教育課程の検討を行う。
生徒の自主性を育み、社会性を身につけるための生徒指導を充実させる。	<p>①基本的な生活習慣を確立させるとともに、命の尊重に関する教育を推進する。遅刻指導、交通安全指導、通学路指導、身だしなみ指導に重点を置く。</p> <p>②教職員間、教職員と生徒、生徒相互のコミュニケーションの充実を図り、豊かな人間づくりを推進する。また、心の悩みやストレスを抱える生徒などを支援する取組みをより充実させる。</p> <p>③生徒ひとり一人が互いの存在を認め、協力出来る良好な人間関係を築き、充実した学校生活を送れるよう生徒を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識が高まり生徒が社会人としての意識を高めることができたか。 ・遅刻指導を前年度より充実させられたか。 ・規則正しい生活習慣の向上が図れたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の向上としてバス乗車マナー等、通学マナーを指導し、生徒は安全・安心・快適に登校している。 ・校舎移転を機に遅刻指導に学校全体で取り組み昨年度に比べ、遅刻者を26%(1月現在)減少できた。 ・いじめ防止アンケートを通して生徒間の悩み、ストレスに対する支援を行った。 ・教職員には3日間の健康相談やメンタルヘルスを行い、生徒支援がスムーズに行えるようにした。 ・身だしなみ指導2年目に入り、頭髪に関しては、染髪等の生徒が少なく落ち着きがあると地域・保護者から評価を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・荒天時や行事の後など一部の生徒の通学マナーの悪さが見られる。今後もきめ細かい指導を継続して行う。生徒会との連携も考えていく。 ・今年度後半より身だしなみ指導と登下校指導をあいさつ指導とをあわせて実施する方向で全職員で取り組む。 ・健康相談では、特に教職員からはなかった。 ・1回目、2回目共にいじめ防止アンケートや面談では、特に生徒からいじめ事案はあがってこなかった。 ・本年度は、移転前の活動を参考にして清掃活動地域を設定したが、今後地域の自治会長等と連携しながら清掃地域を調整する。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の高校と比べても身だしなみ(制服の着用の仕方)や頭髪についてははっきりしていると感じられる。あいさつについてもできていると感じられているので、学校の指導でよい方向に向いていると思う。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭髪に落ちつきがみられるようになった。 ・生徒指導の充実は、保護者に安心感を与える。そんな視点から教育活動を考えて欲しい。 <p>(その他)</p>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全般にわたり、継続的な指導が目に見える形で実を結んでいる。 ・社会規範を身につけた生徒を育てるために従来の頭髪指導に加え服装の指導を徹底することが重要である。 ・(改善方策等) ・各部活動が、より積極的に地域貢献活動やボランティア活動に参加できるよう条件を整備する。 ・部長会や生徒会の主体的、自主的に活動できるよう指導する。

<p>学 ぶ 力 を 着 実 に 身 に つ け さ せ、学 力 の 向 上 を 図 る。</p>	<p>① 確 かな 学 力 向 上 の た め 教 科 会 や 研 究 授 業、公 開 授 業 を 実 施 す る。 ② 指 導 力 の 向 上 を 目 指 し 授 業 研 究 教 科 会 な ど を 活 用 し て 組 織 的 に 授 業 改 善 に 取 り 組 む。 ③ 生 徒 に 年 間 指 導 計 画 を 提 示 し 授 業 の 目 的 を 明 確 に す る と と も に、授 業 内 容 や 評 価 の 観 点 を 理 解 さ せ 学 習 意 欲 を 高 め て い く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授 業 改 善 の た め の 授 業 研 究 教 科 会 を 年 間 9 回 実 施 す る こ と が で き た か。 ・ 公 開 授 業 を 年 間 2 回 実 施 す る こ と が で き た か。 ・ 生 徒 に つ け た い 力 を 明 確 に し た 研 究 授 業 を、全 職 員 で 実 施 し、授 業 評 価 を 年 間 2 回 分 析 し、授 業 改 善 に 役 立 て る こ と が で き た か。 ・ 長 期 休 業 中 等 の 講 習・補 習 で、前 年 度 を 上 回 る 3 5 講 座 以 上 を 設 定 し、3 5 0 名 以 上 の 参 加 が で き た か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏 季 休 業 中 に 全 4 1 講 座 を 開 講 し、延 べ 3 9 3 名 の 生 徒 が 参 加 し た。昨 年 度 に 比 較 し、開 講 講 座 数・受 講 生 徒 数 と も に 増 加 さ せ る こ と が で き た。 ・ 生 徒 の 学 力 向 上 に 向 け た 授 業 改 善 に 資 す る た め に、公 開 授 業 を 3 回、授 業 研 究 教 科 会 を 9 回 実 施 し た。 ・ 6 月 に 初 任 者 に よ る 研 究 授 業、1 1 月 に 5 年 経 験 者 研 修 対 象 者 に よ る 研 究 授 業 を 実 施 し た。ま た、生 徒 に よ る 授 業 評 価 も 7 月 お よ び 1 2 月 に 実 施 し た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生 徒 の 学 習 ニーズ や 意 欲 に あ っ た 講 座 を、放 課 後 等 も 有 効 に 活 用 し な が ら 幅 広 く 実 施 で き る よ う、来 年 度 に 向 け て 検 討 す る 必 要 が あ る。 ・ 長 期 休 業 中 の 講 座 に つ い て は、左 記 の と お り の 結 果 で あ っ た。生 徒 の 学 習 ニーズ や 意 欲 を 把 握 し、さ ら に 幅 広 く 実 施 で き る よ う、来 年 度 に 向 け て 検 討 す る 必 要 が あ る。 ・ 2 回 の 公 開 授 業 や 授 業 研 究 教 科 会 の 協 議 の 機 会 を 有 効 に 活 用 し、生 徒 に よ る 授 業 評 価 の 結 果 等 を 踏 ま え な が ら 具 体 的 な 授 業 改 善 の 検 討 を 行 う。 ・ 授 業 時 間 確 保 の 観 点 か ら 研 究 授 業 を 通 常 授 業 と 平 行 し て 行 い、全 職 員 で の 研 究 授 業 参 観 は 難 し い。授 業 の ビ デ オ を 撮 影 し、授 業 の 振 り 返 り を 行 う な ど、有 効 的 な 研 究 授 業 の あ り 方 を 検 討 す る。 	<p>(保 護 者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校 舎 移 転 に よ り、夏 季 休 業 中 に よ り 良 い 環 境 で 学 習 が で き た と 思 う。 ・ 授 業 研 究 の 更 な る 充 実 を 期 待 し た い。 <p>(学 校 評 議 員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学 び 合 い の 授 業 形 態 な ど 生 徒 主 体 の 学 び の 実 現 に 向 け て 取 り 組 ん で 欲 し い。 <p>(そ の 他)</p>	<p>(学 校 評 価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授 業 研 究 教 科 会 の 協 議 を 充 実 さ せ、教 科 を 基 本 と し た 授 業 改 善 を 図 る。 <p>(改 善 方 策 等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学 習 慣 慣 の 確 立 や 自 己 の 立 ち 位 置 の 分 析 が な さ れ て い な い。進 路 サ ポー ト と と も に 学 校 教 育 計 画 を 検 討 し て い く。 ・ 外 部 講 師 に よ る 観 点 別 評 価 等 の 説 明 会 を 設 定 す る。
<p>生 徒 一 人 一 人 の 可 能 性 を 見 据 え た キ ャ リ ア 教 育 を 推 進 す る。</p>	<p>① 2 1 世 紀 を 担 い、社 会 貢 献 で き る 人 材 育 成 教 育 を 推 進 す る。 ② イン ター ン シ ッ プ や ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 へ の 参 加 を 促 進 し、生 徒 が 自 分 の 将 来 の 生 き 方 に つ い て 考 え 主 体 的 に 進 路 選 択 が で き る 能 力 や 態 度 を 育 む 教 育 を 推 進 す る。 ③ 学 校 外 の 教 育 力 を 活 用 し て 生 徒 に 幅 広 い 教 養 を 身 に つ け さ せ る と と も に、生 き る 力 を 育 て る。 ④ 講 演 会 や ガ イ ダ ン ス、校 外 学 習 な ど の 学 び の 場 を 設 定 し キ ャ リ ア 教 育 を 充 実 さ せ る。 ⑤ 公 共 物 の 大 切 さ・日 常 で の 清 掃 活 動 の 大 切 さ を 理 解 し、実 践 す る 力 の 育 成 を 推 進 す る。 ⑥ 積 極 的 に 社 会 参 加 す る 能 力 や 態 度 を 育 成 す る た め シ ン チ ズ ン シ ッ プ 教 育 を 推 進 す る。 ⑦ 部 活 動 の 活 性 化 等、生 徒 が 生 き 生 き と 活 動・活 躍 で き る 環 境 づ く り を 推 進 す る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生 徒 の 進 路 実 現 に む け て、一 人 一 人 の 生 徒 に 対 し て 充 実 し た キ ャ リ ア 支 援 が で き た か。 ・ イン ター ン シ ッ プ、ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 な ど へ の 参 加 者 が 前 年 度 目 標 を 上 回 る 7 0 人 を 越 え た か。 ・ 校 外 学 習 や ガ イ ダ ン ス、講 演 会 等 を 実 施 し て、生 徒 に 学 び の 場 を 提 供 す る こ と が で き た か。 ・ 校 内 の 安 全・美 化 点 検 と 清 掃 活 動 の 取 組 み が し っ か り で き た か。 ・ 部 活 動 加 入 率 8 0 % を 達 成 で き た か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ イン ター ン シ ッ プ の 昨 年 度 の 参 加 者 は 4 2 名 だ っ た が、今 年 度 は 2 5 名 で あ っ た。 ・ 本 年 度 より ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 推 進 の 一 環 と し て「ボ ラ ン テ ィ ア バ ン ク」を 発 足 し た。現 在 は、P T A と 協 働 し て「朝 の 声 か け 運 動」と 隣 接 し て い る 間 門 小 学 校 と 連 携 し た「あ い さ つ タ イ ム」「見 ま も り 活 動」を 行 っ た。学 童 支 援 活 動 の「は ま っ 子」で ダ ン ス 指 導 を 行 っ た。(2 月 現 在 活 動 参 加 延 べ 数 2 3 9 名) ・ 3 月 1 9 日 に 間 門 小 学 校 1 年 生 に 防 犯 教 室 を 生 徒 会 執 行 部、ボ ラ テ ィ ア 生 徒 と で 実 施 し た。 ・ 各 学 年 ワー ク シ ー ト を 作 成 し、自 己 発 見、自 己 実 現 に 向 け た 学 習 を 行 っ た。常 に 事 後 指 導 を 行 い 振 り 返 り 学 習 を 実 施 し た。ま た、1 年 生 は、進 路 適 性 検 査 も 実 施 し た。 ・ 部 活 動 加 入 率 は、昨 年 度 に 比 べ 0.3 % 増 の 7 4.7 % で あ る。目 標 を 達 成 で き な っ た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部 活 動 や 講 習 に 参 加 し て い た 生 徒 が 説 明 会 な ど に 参 加 で き ザ イン ター ン シ ッ プ 参 加 を 断 念 し た り、締 め 切 り 後 に 申 し 出 た り し て い た の で、説 明 会 の 回 数 を 増 や す な ど、校 外 学 習 や イン ター ン シ ッ プ に つ い て の ガ イ ダ ン ス の 充 実 を 検 討 す る。 ・ 「あ い さ つ タ イ ム」「見 ま も り 活 動」は、1 0 月 に 野 球 部 が 参 加 す る の を 機 に、運 動 部 活 の ほ と ん ど 全 て の 部 活 が 行 っ た。ま た、地 域 老 人 会 主 催 行 事 へ の 参 加 な ど 地 域 に 活 動 の 幅 を 広 げ た。現 在、活 動 の 中 心 が 3 年 生 な の で 1、2 年 生 へ の 活 動 の 輪 を 広 げ て い く こ と が 課 題 で あ る。 ・ 3 年 間 を 見 通 し た 講 演 会 の 日 程 調 整 等 を 行 っ た。ま た、体 育 館、視 聴 覚 教 室、プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン ルーム、進 路 室 等 の 活 用 を 検 討 し、新 た に ス ク リ ー ン を 設 置 す る な ど 教 育 環 境 の 整 備 を 図 り、学 び の 場 を 充 実 さ せ る。 ・ 本 年 度 入 学 生 は 男 子 6 9 名、女 子 1 7 0 名 と 昨 年 度 か ら 2 年 続 け て 大 幅 に 女 子 が 増 え た た め、男 子 部 活 の 部 員 確 保 が 難 し い 状 況 に あ る。「部 長 会」を 中 心 に 新 入 生 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン の「部 活 動 紹 介」の 内 容 や 女 子 運 動 部 の 活 性 化 に つ い て も 検 討 す る。 	<p>(保 護 者)</p> <p>イン ター ン シ ッ プ の 参 加 に つ い て は、参 加 し た か っ た が 締 め 切 り が 過 ぎ て い て 参 加 で き な っ た と い う 声 を 聞 い て い る。是 非、広 報 活 動 を お 願 い し た い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 間 門 小 学 校 と の「あ い さ つ タ イ ム」は 今 後 も 立 野 高 校 と し て 続 け て 行 っ て 欲 し い 取 り 組 み の 一 つ で あ る。 <p>(学 校 評 議 員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イン ター ン シ ッ プ、ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 等 3 年 間 を 見 通 し た キ ャ リ ア 教 育 を 検 討 し て 欲 し い。 ・ 1 年 生 の 早 い 段 階 か ら 自 己 の 進 路 に つ い て 考 え る 場 を 与 え 自 己 実 現 で き る よ う に し て 欲 し い。 <p>(そ の 他)</p> <p>(中 学 校 P T A 訪 問 1 4 校 アン ケー ト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生 徒 の 挨 拶 が 良 か っ た。 ・ 子 供 達 に 挨 拶 し ま し た が、素 通 り さ れ て し ま っ た の が 何 回 か あ り 残 念 だ っ た。 	<p>(学 校 評 価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総 合 的 な 学 習 の 時 間 で 外 部 講 師 を 積 極 的 に 活 用 し な が ら、生 徒 の 進 路 選 択 を 十 分 に 支 援 す る こ と が で き た。 <p>(改 善 方 策 等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生 徒 の 進 路 希 望 実 現 の た め に、3 年 間 を 見 通 し た キ ャ リ ア 教 育 の 構 築 や 教 育 課 程 と の 効 果 的 な サ ポー ト 体 制 を 確 立 す る。 ・ ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 を 日 常 的、継 続 的 に 支 援 す る 仕 組 み を 構 築 す る。 ・ 今 年 度「部 長 会」が 発 足 し た が、生 徒 の 主 体 的 な 活 動 を 検 討 し 充 実 さ せ る。 ・ 卒 業 生 や 教 育 実 習 生 を 活 用 し た キ ャ リ ア 教 育 の 検 討 を 行 う。

<p>地域に開かれた、信頼される学校づくりを推進する。</p>	<p>①講演会など保護者や地域住民と連携した教育活動を行う。 ②学校説明会の内容を充実させ、中学生や地域に向けて効果的な情報発信を行う。 ③ホームページの更新によって学校の行事の様子や新校舎の様子をタイムリーに発信する。 ④学校評価システムによる学校運営の工夫・改善を図ると共に保護者・地域の方々から協力を得るなど地域・社会と歩む学校創りを進める。</p>	<p>・近隣の学校や企業等外部機関との連携を行い、保護者、地域住民等と充実した活動ができたか。 ・学校説明会で各回 500 名以上の参加者があり、内容の充実ができたか。 ・学校の活動を年間 12 回、定期的に更新できたか。 ・学校運営に学校評議員や保護者・地域からの評価、意見を反映させることができたか。</p>	<p>・パシフィコ横浜で実施した全公立展でリーフレットを 2,853 枚配付した。 ・南地区公私合同説明会参加者数は 555 名であった。 ・6月～9月の中学校 PTA の学校見学校数は 14 校であった。 ・学校説明会は 2 回実施し、どちらも 500 名前後の来校者があった。3 回目の学校説明会を 12 月 13 日に実施した。 ・中学校へ 1 年生が高校での学校生活の報告をするとともに広報活動も兼ねて行なわれた。 ・地域貢献活動として 6 月 26 日(木) 5 校時、3 年生が通学路等、学校近隣の清掃活動を行った。1、2 年生は 11 月 6 日(木) 5 校時に実施した。 ・ホームページの更新を行い、移転や行事についての情報を発信した。今後、学校評議員や保護者に向けて評価・意見を受け易くするために 1 年間の教育活動の動画・静止画を撮り貯めている。 ・本牧間門校舎の落成式を 5 月 31 日(土) に実施し、地域の方々を含め 342 名の来場者があった。 ・文化祭では、PTA の委員会が福祉施設との連携で作成された物品を販売した。</p>	<p>・全公立展での配付総数は昨年度より減った。確実に 1 人に 1 枚を渡したため説明会への参加者、参加校は増えているので今後の受検生のニーズ等を踏まえ内容を検討する必要がある。 ・ホームページについて地域からの意見や要望がある。さらに、リアルタイムな情報の発信をする。 ・生徒会の生徒を中心に近隣地域の「見まもり活動」を実施する。 ・PTA の活動と生徒の活動との連携を図りたい。</p>	<p>(保護者) ・これから受検シーズンに向けて受検生より保護者がホームページを見る機会が増えていくので、行事など生徒たちの生き生きとした姿が多くアップされると良いと思う。 ・今はスマホやタブレットで簡単に見られるのでリアルタイムでの更新をお願いしたい。 (学校評議員) ・ホームページの改善や更新を増やし、教育活動の発信をお願いしたい。 ・1 年生の中学校への派遣時期については、検討が必要である。 (その他) (中学校 PTA 訪問 14 校アンケート) ・説明会において「学校概要説明」「スライドによる学校紹介」「校内見学」「全体として」の全ての質問項目に対して高評価を得た。</p>	<p>(学校評価) ・PTA が文化祭等の学校行事に積極的に協力し、生徒会の活動に貢献した。 (改善方策等) ・地域に対して保護者との連携を広報できるようにしていく。 ・ホームページの活性化や更新を図り、教育活動を発信していく。 ・広報用のビデオの作成を再検討し内容やあり方等を見直す。</p>
<p>生徒が安心して学べる教育環境の整備に努める。</p>	<p>①安心して学習に取り組めるように、校内外の環境を点検し必要な整備を行う。 ②自らのいのちを自らの力で守るための防災に関する教育を推進する。 ③事故・不祥事を防止する意識を徹底し、事故・不祥事ゼロを目指す。</p>	<p>・生徒が安心して学べる環境整備に努められたか。 ・防災訓練や防災教育の実施が効果的に行えたか。 ・不祥事防止研修会を、年間 6 回実施できたか。</p>	<p>・校舎出入口にマットを配置し砂、水の持込を抑制した。各クラス 2 本のモップを配備し簡易に清掃ができる体制づくりをした。 ・新校舎における初めての防災避難訓練を 8 月 28 日(木) に実施した。 ・事故防止研修会を 19 回実施した。また、グループでテーマを決めて研修会を企画し、意識啓発を行った。 ・日々の清掃に対し教職員・生徒が一丸となり取り組んだ。</p>	<p>・マット、モップの実効性や費用について検証する。また、業者清掃の導入について協議するなど、環境整備に関して予算を含めた改善策を検討する。 ・防災避難訓練の日程については、次年度の年間教育計画立案で改善する。 ・グループにおけるテーマ別の事故防止啓発活動の活性化の検討を行う。 ・校舎の現状を維持できる清掃体制や方法の検証を行い、環境美化と生徒の健康・安全を推進する。</p>	<p>(保護者) ・学校目標等であるように職員の指導や生徒の努力のおかげで、校内はきれいに使われている。これからも生徒たちが、学校を大切に作る気持ちを持ち続け、その気持ちを後輩に引き継ぐようにさせたい。 (学校評議員) ・業者のマット等を導入しての環境美化の工夫が良いと思う。生徒への環境教育をお願いしたい。 (その他) (中学校 PTA 訪問 14 校アンケート) ・新しいだけでなく、ごみが落ちていないので清掃がしっかりされていると思いました。 ・生徒にとって良い環境で学べる事が素敵だと感じられました。</p>	<p>(学校評価) ・安全・安心・快適な学校生活が送れるように、更なる検証を行う。 (改善方策等) ・職員対象の AED の使用等の研修会を実施した。職員対象の研修会については、実施時期や内容の検討を行い、生徒対象の救急講習会も実施していく。 ・クラスの生徒を中心にした清掃活動の充実、部長会等の組織を活用した清掃活動を検討していく。</p>